

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2006年 1月 31日

I 概要

実践団体・担当者名	高知県立高知東高等学校（担当者：谷内 康浩・小川 晴美）	
連絡先	高知県高知市一宮徳谷23-1 電話088（845）5751	
プランタイトル	地震に特化した防災避難誘導訓練	
目的	○火災や地震などの災害時における避難を安全かつ迅速に行えるよう、防災への意識を高める。 ○訓練を通して、非常時の避難経路・避難場所の決定までの方法、教職員のとるべき行動を確認する。	
プランの概略	【流れ】 帰りのSHR終了後 （１）各ホームで地震発生時の行動について周知 ◆震度６強の揺れについて説明する。 ◆「机の下に潜る」「机の脚をつかむ」「周囲をよく見る」を指示 （２）LHR中に震度６強の地震が発生 ◆校内放送で地震発生を知らせ、鳴動（テープ）を１００秒間流す。 （３）※ホーム主任・・・放送（鳴動）終了後、生徒の状況を確認 避難指示があるまでの教室待機の間、次の作業を行う ①生徒とともに次の事項について話し合う（地震後のイメージづくり） ・校舎内ではどういう危険、問題が生じるか？そのための備えは？ ・どのようなケガが想定されるか？その時の対応の仕方は？ ②避難時の注意事項を周知する ※ホーム主任以外・・・放送（鳴動）終了後、校舎の被害状況を把握しながら、職員室に集合し、教頭に報告する。 （４）職員室で被害状況をまとめ、避難場所・経路を決める作業を行う。 （５）校長が避難経路・避難場所・役割分担を決定し、教職員に周知する。 （６）※停電で校内放送が遮断したことを想定して、避難経路・避難場所を連絡教員が各ホームに周知する。 ※避難誘導の場所等に教職員を配置（→※当日までに想定分担を作成） ※避難場所に、避難本部を開設準備 ※救護所を開設準備 （７）非常ベルを鳴らす（火災ではないが、緊迫感をもたすため） （８）避難場所に集合・点呼 （９）講評（校長） （１０）解散（そのまま放課）	
プランの対象と参加人数	全校生徒・教職員	
実施日時	2006年12月2日（金曜日）中間考査終了後、3・4時間目	
主な実施場所	校内	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	無し
	連携した団体名	
	連携したきっかけ・理由	

	連携団体へのアプローチ 方法	
	連携団体との打合せ回数	
	連携団体との役割分担	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年11月
	立案時間	3時間（プラン作成）
	上記のうち打合せ回数	1回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○地震発生時により近い状況を想定して実施する。 ○教職員一人ひとりが、状況をイメージしながら訓練に参加できるように工夫する。 ○生徒・教職員が、地震発生時・後の原則を確認できるようにする。	
プラン立案で 苦労した点	○地震発生時の想定をどのように設定するか。	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名）
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年11月
	準備総時間	2時間（掲示物作成等） 1時間×3回（打合せ）
	上記の内打合せ回数	3回

教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	無し
	どのように働きかけたか	
	結果	
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	無し
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	無し
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	機材：アンプ付スピーカー（ワイヤレス） 軽トラック 教材：模造紙大の校内見取り図・校舎見取り図 けが人標識、点呼場所表示板
	入手先・入手方法	機材：アンプ付スピーカー（ワイヤレス）は校内 軽トラックは事務長保有 教材：校内で作成
	機材・教材選定の理由（な ぜこの機材・教材を選ん だのか）	機材：アンプ付スピーカー（ワイヤレス）は、避難集合場所での 拡声器として利用 軽トラックは、ステージとして荷台を利用
参加者の募集	募集方法	全校生徒・教職員参加
	募集期間	
	参加予想人数	－ 名
	実際の参加人数	850名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した 点・工夫した点		従来の避難訓練の方法を、以下の点について変更・ 見直して実施した。 ○「地震」のみに特化した避難誘導訓練とした。 ○地震後の被害状況の把握を教職員が行い、それに 基づいて避難経路・避難場所を決定した。

		○役割分担は、訓練時に発表した。 理由：学校は授業中が多く、特定の者を配置することが困難。被害状況を把握しながら、その時の人員を配置することが現実的であるため。 ○想定される南海地震の揺れの長さ（１００秒）をテープ（効果音）を流して体験させた。 ○地震後の被害状況把握の時間を活用して、災害をイメージする時間をとった。 ○防火扉を閉めて、そのドアからの避難を体験させた。
--	--	--

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月			
2月			
3月			
4月			
5月	○5/31 第1回地震防災プロジェクト委員会で日程確認		
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月		○11/15 第6回地震防災プロジェクト委員会 ○11/22 職員会で最終確認（意思統一）	
12月		○12/1 避難経路等の設定のための打合せ 掲示物等の作成	○12/2 防災避難誘導訓練 ○12/22 第7回地震防災プロジェクト委員会で総括
2006 1月			

V実践の詳細 【A. 素材】（メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル	地震に特化した防災避難誘導訓練			
実施日	12月2日（金曜日）			
所要時間	5分	2分	18分	20分
達成目標	●地震発生時にとるべき行動を理解する。	●地震動100秒の長さを理解する。	●地震による危険性をイメージするとともに、その備え(対策)について理解する。 ●避難時の行動を確認する。 ●情報収集とそれに基づく避難経路・場所、役割分担の決定を行う過程を理解する。(教職員)	●避難を安全かつ迅速に行える。
生成物				
進め方 (箇条書き)	●震度6強の揺れについて説明する。 ●「机の下に潜る」「机の脚をつかむ」「周囲をよく見る」を指導。 ただし、机の下に潜ることができない場合は、カバン等で頭を守ることを指導。	●鳴動を聞きながら、地震発生時の行動をとる。	●「校舎内ではどういう危険、問題が生じるか？そのための備えは？」「どのようなケガが想定されるか？その時の対応の仕方は？」について話し合い、模造紙に記録する。 ●「オハシモ」を確認する	●非常ベルとともに避難を開始 ●余震に備えて頭にカバンを置いて移動 ●避難場所に集合・点呼 ●講評
ツール (特別に用意したもの)		●地震鳴動のテープ	●模造紙 ●マジック（黒・赤）	●アンプ付スピーカー ●軽トラック（荷台をステージに）

場所	各教室	各教室	各教室	各教室→補助グラウンド
----	-----	-----	-----	-------------

V実践の詳細 【B. イベント】（短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45 分	45 分	45 分	45 分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】（継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。）				
タイトル				
実施日				
所要時間	45 分	45 分	45 分	45 分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

VI実践後

参加者への アンケート結果	実施後、教職員を対象にアンケートを実施した。(以下、抜粋) ○あなたは、今回の訓練の自分の役割を理解して、行動できましたか？ 1. できた(4.8%) 2. おおむねできた(76.2%) 3. あまりできなかった(19.0%) 4. できなかった(0%) ○生徒は、真剣に訓練に参加をしていたと思いますか？ 1. よく参加していた(0%) 2. だいたい参加していた(81.0%) 3. あまり参加していなかった(19.0%) 4. 全く参加していなかった(0%) ○「実施上の問題点・課題・疑問点」「学校の防災(減災)をすすめていく上で最も重要な取り組み」について、多くの意見が寄せられた。	
成果として 得たこと	○現実に近い方法で実施することにより、教職員のイメージづくりとともに、備えておくべき事項、訓練の改善点が明らかになった。 ○前々日の地震防災に関する教職員研修会(クロスロードの手法を用いて)が活かされたものとなった。	
成果物	(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。) ○実施要項 ○教職員アンケート用紙および結果 ○PTA会報の記事 ○総括文書	
広報方法	広報した先	
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と 反省・課題	○情報収集の集約に手間取り、人的配置、避難経路の決定までに時間がかかった。 ○「的確な指示」が必要である。 ○訓練のためか、真剣さを欠いた面もある。(非常ベルのボタンをどさくさに紛れて押す。 余震に備えて、頭をカバンで隠して避難ができていない等) ○訓練で明らかとなった、今後改善すべき点 ▲救護所の早期設置 ▲救急医療班メンバーの固定(養護教諭・事務職員・看護科教員・実習助手) ・・・救護所を設定したら、ただちに向かわせる。 ▲救護係(負傷者の搬出)は、自主的に手を挙げた者が、必要な場所に先発して行く。 ▲教職員一人一人がどの係になっても良いように、役割を熟知しておく。管理職が人的配置を詳細に決めるには無理がある(時間がかかりすぎる)。自主申告方式が早いと思われる(同時に点呼も行う)。	

	▲避難場所本部や情報収集係は早く決定し、準備に当たる体制をとる。 ▲災害に備えての準備物（災害対策本部用、職員室に）を箱に入れて備えておく。 ・校内配置図・校舎見取り図（模造紙大）・色マジック ・生徒名簿　・教職員名簿 ・ハンドマイク　・携帯ラジオ ・記録用紙（ノート） ▲「訓練」の実施要項については、詳細な説明と意思統一が必要である。	
今後の予定	来年度以降の進め方	○今回の教訓を活かして、様々な場面を想定して実施する。 ○年2回の実施を検討する。（4月は火災を想定した総合訓練、12月は地震を想定した訓練）
	是非実施してみたい 取り組み	○様々な場面における訓練 ・ホームルーム中 ・授業中 ・休み時間（移動時間・昼休み） ・清掃中 ・放課後（部活動中） ・集会（行事）中 ・登下校中

自由記述	
------	--